

「マカセテ」外に出よう



日本での外出制限は、間違った政策です。

- ㊦ マスクを付けて、
- ㊦ 漢方薬をポケットに入れ、
- ㊦ 接触を避けて、
- ㊦ 手洗いを心掛けて、

これからは外に出ましょう。

風邪かな?と思ったら即、漢方薬を飲めば、
新型コロナはほとんど発症しません。
外出しないと、人も日本も壊れます。

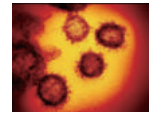
食品と暮らしの安全

Safety of our Foods and Life

2020.6 NO.374

CONTENTS

教えて!寺澤先生●新型コロナ、今後の注意点は?.. 10
アメリカ●ステイホームで健康に?..... 12
中国●コロナより怖い食料危機..... 14
経済●コロナ・バブルの予兆..... 16
首都直下地震に備えて!!..... 18
ウクライナ報告●子どもの病気が激減..... 21
国際チェルノブイリ福島連盟●安倍総理に意見書.. 21
マグちゃん●お肌に効果、NHKも太鼓判..... 22
こぼれ話●コロナ対策は「マカセテ〇〇」で..... 24
モニター報告●「眼鏡はずしても見えるで!」..... 26
アルコール依存●女性は男性より注意を..... 28
NHK「痩せる王道! マグネシウムの実力」..... 30
健康を守るマグネシウムが足りない..... 32



米国立アレルギー感染症研究所提供

p2-9

外に出られる生活に戻そう

自民党は「マカセテ」

「外出自粛の中止を求める」講演会
変質した「3密」

“8割おじさん”大間違い

「4日待たせる殺人医療」

公開質問状と辞任要求



NPO法人 食品と暮らしの安全基金
(日本子孫基金)



自民党は「マカセテ」

国のコロナ政策を変えようと、公開質問状を出していたら、自民党の高橋ひなこ議員がNPOの支援資料を持って来訪。「マカセテ」資料を渡すと、党の関係者に配ってくれ、早速、閣僚らが強い関心を示すなど、波紋が広がっています。

「3密」に勝るキャッチフレーズを考えなさい、と高校の先輩から言われ、㊶マスク、㊵漢方、㊷接触を避け、㊴手洗いを「マカセテ」を考案しました。

5月13日、東京から事務所に来てくれた高橋ひなこ衆議院議員に、日本は欧米と文化・風習が違うので「3密」を根拠に外出を自粛させて感染を防ぐより、外出を認めながら、危険性の高いところへの対策を徹底して、新型コロナの封じ込めに成功している台湾やベトナムを見習う方がいいと提言。

外出自粛を続けると、感染して死亡する人の数十倍が自殺すると懸念を伝えました。

国会の委員会で議員に配布

漢方薬が新型コロナに効いたと出ている「COVID-19に対する漢方治療」の論文と、漢

方薬の専門家たちがまとめた「漢方薬の使い方」の論文と、「マカセテ」の資料を、高橋議員に渡すと、「これはいい」と、そのまま国会の委員会に直行して関係議員に配ってくれました。



漢方の論文には、閣僚、大物議員、医師の議員が関心を示したので、すぐ送りました。

予防に使うと論文に出ている「十全大補湯」を飲んでいる閣僚がいたので、新型コロナは初期のうちに漢方薬で治そうという動きが、間もなく本格化するでしょう。

新型コロナの予防に使える「補中益気湯」「十全大補湯」

小川恵子先生(金沢大学附属病院漢方医学科)が、「COVID-19 感染症に対する漢方治療の考え方(改訂 ver 2)」(日本感染症学会HP)の中で「補中益気湯」「十全大補湯」を「予防が肝心」と紹介し、「漢方薬には免疫力を上げる働きも報告されています」「予防には、成人1日量の3分の2から1が適する」と説明しています。

この2つは、ガン予防にと本誌で紹介してきた漢方薬です。薬局で売っているので、うまく利用してください。



ここから流れが変わった!



5月2日

「外出自粛の中止を求める」講演会

新型コロナから自分を守る方法は書き尽くしたので、次は国政や都政を変えなければと、5月2日、「外出自粛の中止を求める」講演会を、都心の「たんぼぼ舎」で開催。外出自粛要請の中、25人が参加してくださり、盛り上がった集会になりました。

あえて人を集めて講演会

東京都と政府は、外出を自粛させて新型コロナを封じ込めようとした。

外に出なければ感染者は減りますが、的外れなので専門家が予想したほど減りません。

ところが、感染者が減らないのは、外に出る人が多いからとされ、怖がらせ、脅す報道ばかり。目を覆いたくなるほど、マスコミはレベルが低下しています。

このままだと、新型コロナで亡くなる人の何十倍も自殺者が出そうなので、緊急に人を集めて講演会を行うことにしたわけです。

新型コロナ対策グッズでショーアップ



4倍に膨らむタオル

入り口で、コンパクトタオルにホワイト・リカーをかけると、吸い込んでタオルがモリモリと盛り上がるので、参加者はビックリ。

飲料用アルコールを含んだタオルで手を拭くので、手荒れしません。

そのタオルで座った机を拭いてもらうと、ピカピカになって再びビックリ。

次に、湯で割った「無添加白だし」を出してミネラル補給。ミネラルの足りない人は体温が上がり、免疫力がアップします。



それから、マヌカハニーをス



マヌカハニー

プーン一杯なめてもらい、喉もすっきり。

さらに王瑞雲先生おすすめの「板藍根茶」を淹れて配り、お持ち帰り用にマヌカのロゼン



ロゼン

ジを2個、「麻黄湯」1袋を配ると、新型コロナへの恐怖感はなくなりませんでした。

変質した「3密」

講演会で批判した3つの大間違いを、その後にはわかった情報も加えて、わかりやすく解説します。

クラスターが発生していない満員電車

日本はMERSもSERSも流行しなかったため、検査能力が少ししかありません。

そこで、集団感染を見つけて封じ込めるクラスター対策を行って、当初は対策に成功していました。

5人以上に感染させるクラスターは、意外にも満員電車では発生していません。新型コロナウイルスが入ってきた当時は、ちょうど花粉症の季節で、マスクをした人が多かったからと考えられます。

感染者の、つば、鼻水、尿、便が手に付いて、その手で口や目を触ると新型コロナは感染します。そうしやすいところから、クラスターは発生しています。

人が一番混み合うのは都心に通勤する満員電車で、ここで咳やくしゃみした感染者がいるはず。おそらくマスクをしていたので、つばや鼻水が飛び出さず、クラスターが発生しなかったのでしょう。

小池知事の2つの言い換え

小池知事は3月23日の記者会見で『換気の悪い密閉空間』、『多くの人の密集する場所』、『近距离での会話』、この3つの条件が重なる場を避ける」と述べました。

「3密」の「密接」は、ダイヤモンドプリンセス号のダンスパーティなどで手や体が「接触」したことから出てきた言葉なのに、「近距



離での会話」に言い換えたのです。

25日には「これら3つの『密』避けていただく」と言って、「3つの条件が重なる場」から、「1密でも避ける」に言い換えました。

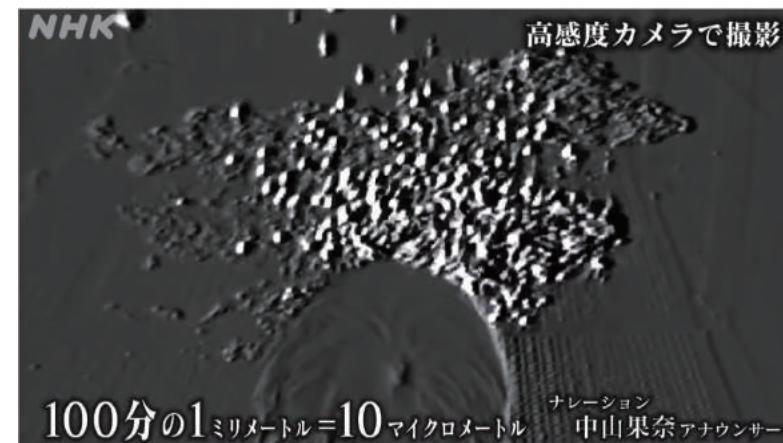
27日には「上野動物園、さらにはほかの全ての動物園、庭園など」「都立の公園内にあります運動施設、バーベキュー広場、ドッグランなどの施設についても使用を中止いたします」と、「1密」にストップをかけました。

経済被害が大き過ぎる外出自粛要請

医療機関や福祉施設は、感染を防ぐのが非常に大変で、感染者が出ると医療崩壊につながる。都として最悪の事態を避ける対策をとったのは理解できます。

しかし、この後、欧米を見習って全面的な外出自粛を要請したことから、非常に多くの都民を苦しめた割に、成果の少ない対策になってしまったのです。

マスクは、「1密禁止」になった後も、「3密」と報道を続け、「外出自粛要請」も無批判に賛同して、「外に出ると危ない」と煽ったので、長期に経済被害を受ける人が増えて絶望した人が自殺し始めているのです。



この映像でダメされた

くしゃみで出るマイクロ飛沫を撮影したNHKの映像で空気感染の危険性を納得！
こんな人が多いのですが、これは怯えさせるための演出に騙されているだけです。
10マイクロメートル(μm)の粒子はストーンと落ちて、漂いません。

空気感染は低リスク

室内の空気中に、どの大きさのチリが何個ぐらい飛んでいるのか、粒子測定器を机の上に置いて3回測定してみました。1m³(1m立方体)中に漂う粒子の平均値は、次のとおりです。

- 5μm=0個
- 2μm=11個
- 1μm=62個
- 0.7μm=148個
- 0.5μm=503個
- 0.3μm=7553個

5μmの粒子は重くてすぐに落ちるので、風が吹かないと漂うことはありません。

映像の10μmの粒子はすぐに落ち、「2m離れば安全」の根拠になっています。

ところが、この数秒の映像を何度も繰り返して長く漂うように見せ、恐怖心を煽っているのです。

会話しても危険、と解説するシーンの下に

「現時点でマイクロ飛沫をどのくらい吸い込むと感染するのか分かっていません」とテロップが付いています。

危険が明白な感染経路は、吐き出したつばに触る「接触感染」と、くしゃみや咳で出た大きな飛沫が口や鼻に入る「飛沫感染」です。

「接触感染」を防ぐには、早く拭きとるか消毒することが重要です。

「飛沫感染」を防ぐには、咳やくしゃみをする人にマスクを着けさせることです。

スーパーは、買い物かごを1日に2~3度拭いていますが、置き場に戻す都度、取っ手を拭くように改善する必要があります。

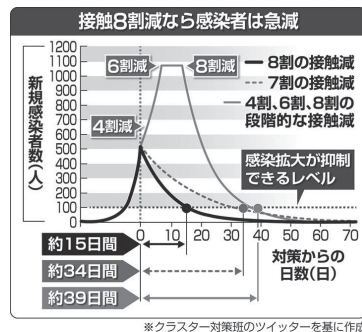
肺に炎症が出やすい新型コロナは、細かなマイクロ飛沫が注目されています。

しかし、「感染した人の8割は無症状」の方に注目して、食事と軽い運動で体調を整え、免疫を正常にして、ウイルスを吸い込んでも症状が出ないようにする方が賢明です。

運がいいと、気づかないうちに抗体ができて、感染しなくなることもあります。

“8割おじさん”大間違い

小池知事は3月30日から西浦北大教授を伴って記者会見し、外出自粛の必要性を繰り返し訴えたら、安倍首相もつられて、4月7日に緊急事態宣言を出し、全国の人が家にこもりました。



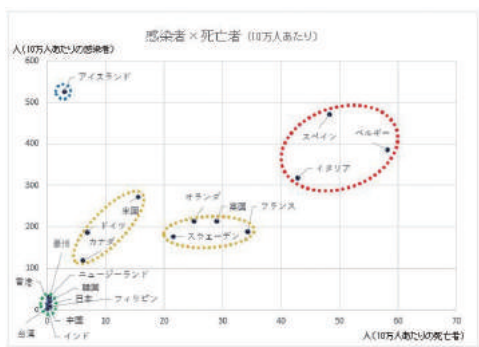
※クラスター対策班のツイッターを基に作成



「接触を8割減らせれば、感染者を1ヵ月で大きく減らせる」と主張する西浦北大教授。この説はインチキ

と、反原発運動仲間地域計画家の雛元昌弘氏が発信していたので、一緒に講演していただきました。

トイレの清掃・消毒と、モノからヒトへ感染しないように対策を強化し、クラスターが起きた業界や場所だけに営業の自粛を要請すれば、今と同じか、それ以上に成果を上げることができたと考えられます。



「ひどすぎる」

原題は「“8割おじさん”は学生レベル!」だったので、講演後の最初の質問は、「このタイトルは、学生に失礼では?」。

雛元さんは即、「すみません。『“8割おじさん”は大間違い』に訂正します」。

政策の検討に使えるレベルではないデータで、これまで一度もなかったほど安易に全面的な外出自粛要請が決まったことに、参加者全員が「ひどすぎる」。

このダメージで日本経済は沈没に向かって進むようになっているのです。

ドイツモデルで1条件だけ

新型コロナの感染は、地域や条件によって大きく異なります。したがって本来は、複数のモデルを作成し、さまざまな条件で、どうしたらどう感染が拡大するか、減るかをシミュレーションします。

それを政治家が見ながら、どの政策をいつまで取り入れようか、と考えるわけです。

ところが、西浦シミュレーションは再生産係数が2.5のドイツモデルによる外出禁止の条件だけで「8割」の結論を出しました。みなさんが何十回も見たあの図だけなのです。

少なくとも再生産係数が1.7の日本モデルによるシミュレーションが必要です。

1モデル1条件だけで国の政策が決められたことは、これまで一度もないと思います。

1月下旬の第1波感染と3月下旬の第2波の違いを分析すれば、感染のピークは4月上旬ですから、外出の全面抑制は不要でした。

「4日待たせる殺人医療」

新型コロナが日本各地で発症すると、国や医師会は、風邪の症状が出た人は安静にして4日間、自宅で様子を見る医療にしました。

4日待たせる「殺人医療」

5月2日時点では、厚労省も医師会も「有効な薬はない」として、医療崩壊を防ぐため、風邪の症状が出た人は病院に行かせず、かかりつけの医師や行政の相談窓口で電話させて、37.5度以上の発熱、強いだるさが4日(高齢者、基礎疾患のある人、妊婦は2日)以上続いていると、PCR検査を受けるかどうか相談することになっていました。

ところが「相談崩壊」が起きて、電話が繋がらず、何人もの人が相談もできないまま亡くなりました。

電話が繋がっても、「待つように」といわれ、待っているうちに容態が急変して救急車で運ばれましたが、手遅れになった人は何百人もいます。

病院での感染を防がないと医療崩壊すると言って、電話で相談させましたが、相談者が多くて電話が繋がらないのに、何ら改善策をとらずに自宅で待機させて命を失わせたのは、国と医師会による「殺人」です。

「かぜのひきはじめに効く」

薬局の漢方薬コーナーに「かぜのひきはじめに効く」と表示された薬があります。本誌は3月号から「風邪かな?」と思ったら、この漢方薬をすぐ飲むよう提案しています。

ところが国や専門家は、重症患者のことだけを考え、発症者を減らそうとはまったく考



えなかったのです。

新型コロナに感染しても、症状が出るのは2割以下。感染して症状が出ても、自然治癒する人がいます。

それなのに、「かぜのひきはじめに効く」漢方薬を飲んで「効かない」などということがあるのでしょうか。

「麻黄湯」は、風邪とインフルエンザの区別がなかった2000年前から風邪に使われ続けており、日本では「かぜのひきはじめに効く」ことを国が確認しているのに、風邪の症状が出始めたとき、薬局で買って使うことを国や医師会は勧めず、自宅で待たせたのです。

それで多くの人が亡くなりました。



感染症学会は3治療例

感染症学会のHPには漢方薬が新型コロナに効いた実例が出ている小川恵子先生の「COVID-19に対する漢方治療」の論文が紹介されました(2ページで紹介)。

論文の最後に、さまざまな漢方薬を用いて良くなった3治療例が紹介されていましたが、どれにも「麻黄湯」が使われていました。

私は講演中に「麻黄湯」1袋を全員に配り、「風邪かな?と思ったら、すぐ飲んで」と言って、財布に入れてもらうと、新型コロナへの恐怖感が吹き飛び、今日の話をみんなで発信していこう、ということになりました。

中国では、武漢の封鎖を解いた後、万里の長城に多くの観光客が押し寄せました。それなのに、2度目の感染爆発は起きていません。習政権が奨励している漢方が効いていると考えられます。

日本にも漢方の伝統があるので、中国から情報を得て、漢方薬や鍼も用いて新型コロナに立ち向かうべきだと思います。

中医学の医師が「効く」

4月22日、「漢方薬が効く」という情報が2つ出てきました。

1つは東京新聞の「はりや漢方薬『有効』」「新型コロナ治療 習政権奨励」と、「武漢で経験『効果は明白』」「中医学の劉医師に聞く」という2本立ての記事。

最初の記事では『清肺排毒湯』は新型コロナの特効薬だ、「90%以上の患者で炎症抑制などの効果があった」と北京中医薬大学の王偉副学長の見解を掲載。

2本目の記事では、武漢を訪ねて治療した劉医師が、「鍼は効果が非常に大きくて早い。胸の苦しさが改善または全快し、呼吸困難にも効果が得られた」と語っています。

講談師の神田香織さん

講演会には、講談師の神田香織さんが参加してください、芸人が苦境になっていることを話した後、講演内容を切れ味鮮やかに解説してくださいだったので、参加者はその話に引き込まれました。



講演会後の活動

公開質問状、辞任要求

機が熟していたようで、講演会の後、事態が動き始めました。そこで都知事と医師会に質問状を出していたら、2ページのように一番声の届かない国の中枢に高橋議員が声を届けてくれたのです。

「4日待たせる医療」を改善

5月4日に開催された厚労省の専門家会議で、相談・受診の目安の見直しを進めることになり、8日の大臣記者会見で「37.5度以上の発熱が4日」を見直すことが明らかになりました。

もっとも、国民が誤解していたかのように大臣が発言したので、ネット上では「許せない!」「ふざけるな」「嘘をつくな」「酷すぎる」と、怒りの声があふれました。

厚労省が見直しを始めているのに、8日の時点で医師会は以前のポスターをHPに掲載していました。「4日待たせる医療」を早くやめないと、さらに死ぬ人が増えます。

そこで日本医師会の横倉義武会長と、東京都医師会の尾崎治夫会長に「4日間待たせる殺人医療をやめさせようとしている団体」だが、「かぜのひきはじめ」と書いた『麻黄湯』『葛根湯』が薬局に売られているのに、風邪の症状が出たときに、風邪のひきはじめに効くとされた漢方薬を用いて治療を行わせない理由は何か、と公開質問状を送りました。

「3密」を広めた小池知事に

小池知事は、「3密」と言って広めながら「1密」を怖がらせるようにした張本人。

知事と周辺の人に間違っていることを理解してもらおうと、5月11日に5項目の質問

状を届けました。

- ① つば、鼻水、尿、便が付いたところより「3密」対策を優先した根拠は?
 - ② 「密接」を「近距離での会話」とした根拠。
 - ③ 「3つの条件が重なる場を避ける」から「1密を避ける」に変更した根拠。
 - ④ 都心で超満員が続いていた3月の通勤電車でクラスターは何件起きたか?
 - ⑤ マスクをしていた感染者が満員電車でクラスターを起こしたケースは何件あるか?
- ④⑤はゼロゼロですから、この5項目を調べると、外出自粛がいかに大間違いだったかがわかります。

5月11日、知事秘書室に公開質問状が届いていることを確認し、記者クラブにも資料が届いていることを確認した後、幹事のNHK記者に電話で10分ほどレクチャーしました。

責任をとって辞任を

普通はここまでいいのですが、5月15日、加藤厚労大臣に、効くとした漢方薬があるのに使わず、4日待たせる目安を出して数百人を殺した行政の責任者として責任をとり、辞任してください、日本医師会・横倉会長にも、数百人を殺した医療団体の会長として、東京都医師会・尾崎会長には、多数の人を殺した医療団体の会長として責任をとり、辞任してくださいと、要求書を送りました。

(小若)

